広報はいづか 95 号（平成 25 年４月）

イチリンソウ

漢字で書くと一輪草。文字どおり、ひとつの花茎に一輪だけ花を咲かせます。同じ意味でイチゲソウ（一華草）という別名もあります。また、ウラベニイチゲ（裏紅一華）とも呼ばれることもあります。花びらに見える５枚の萼片は表が真っ白ですが、その裏面が赤みを帯びていて、つぼみはかわいい薄紅色の玉のように見えます。灰塚ダム周辺にたくさん見られる春植物のうち、もっともおそ咲きの花です。

三良坂町では春植物の多くが天然記念物に指定され、町村合併後も指定は引きつがれていますが、このイチリンソウは当初から指定外でした。たくさんあるし、繁殖力も強いからだと思いますが、冷遇されたものは、つい応援したくなります。さいわい、保護対象のセツブンソウやカタクリなどと一緒に自生していることが多く、これらの移植は土ごと運んでいることが多いため、移植先でも元気に花を咲かせています。

春植物はすべて、５月の終わり頃には枯れてしまいます。でも、地下の根茎は生き続けていて、暑い時期を眠って過ごします。「世の中に寝るほど楽しいことはない、浮き世の馬鹿は起きて働く」こんな狂歌がどこかに載っていました。そのとおりかもしれませんね。